

平成26年度 第1回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議 会議録

日 時	平成26年9月8日(金) 午後4時から 午後6時まで
場 所	静岡県庁別館9階第1特別会議室
出席者職・氏名	高階秀爾 (公財)大原美術館館長 芳賀 徹 静岡県立美術館館長 遠山敦子 (公財)トヨタ財団理事長 石塚正孝 静岡県コンベンションアーツセンター館長 伊東幸宏 静岡大学学長 木苗直秀 静岡県立大学学長 内藤 廣 建築家・東京大学名誉教授 寒竹伸一 静岡文化芸術大学大学院教授 東 恵子 東海大学海洋学部教授 岩崎清悟 (一社)静岡県経営者協会会長 後藤康雄 (一社)静岡県商工会議所連合会会長 中西勝則 (株)静岡銀行 代表取締役 取締役頭取 酒井公夫 (公財)静岡観光コンベンション協会理事長 藤田圭亮 (株)なすび代表取締役社長 知事、静岡市長他
議題	東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方
配付資料	資料1：東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議の設置について 資料2：東静岡地区における「文化力の拠点」の形成 資料3：静岡県の文化振興施策 資料4：静岡市の取組等

【企画広報部長】 定刻となりましたので、ただ今から第1回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議を開催いたします。

委員の皆様にはお忙しい中を御出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、事務局を所管しております企画広報部長の白井です。よろしくお願いいたします。

それでは、会議開催に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。

【知事】 会議開催に当たりまして一言御挨拶申し上げます。本日は第1回の東静岡周辺有識者会議に、高階先生、遠山先生、芳賀先生、木苗学長、内藤さん、寒竹さん、東さん、経済界からも後藤会長、岩崎会長、中西さんも、藤田さん、酒井さん、今度、グランシップの館長に就任いただきましたJR東海の副社長をお務めになられた石塚様、そして、今日は市長様もお忙しい中来ていただき、誠にありがたい幸せです。

今、「東静岡駅」と言いましたが、実は、あそこはもともと静岡市長さんが「久能山東照宮日本平駅」としたいと、立候補されるときに言われましたが、なかなかならないので、

日本で一番長い名前だそうです。

ここは、言ってみれば府中として商業の中心ということで、そういう意味でのコンパクトシティ化が進んでいるわけですが、静岡県は伊豆半島のジオパーク、富士山の世界文化遺産、南アルプスのエコパーク、また、お茶は世界農業遺産ということで、世界標準のすばらしい、海と山の風景の画廊のようなものに恵まれているわけです。

そうした地域に入ったということを示すような玄関口、陸の玄関口が、実は東静岡駅なのです。

そして、空の玄関口は、天女が舞い下りた三保松原でして、その真ん中に日本平、かつての日本平^{やまとだいら}、日本武尊があそこで馬を休憩させようとされて、その馬が逃げて、多分、三保松原の方に逃げたということで、あその地名は「馬走^{まばせ}」となっているわけですが、この全域の玄関口をどのようなコンセプトでつくるかということです。

今までは、どちらかという、東静岡の貨物駅があのような形になりましたので、土地が空き、こちら側は市、こちら側は県、さあそれぞれということで、今、ある程度のゾーニングが決まった後、「乱開発」と言うと少し言い過ぎですが、建物が勝手に建って、不調和極まる形になっています。

それは、都市計画がないということの表現でありますので、私は、「文化とスポーツの殿堂」、「文化とスポーツの夢のある殿堂」ということで、「夢殿プロジェクト」としてつくろうと思っているわけです。

それで、東静岡駅、すぐにグランシップがあります。そして、草薙の総合運動場がありまして、来年の春には内藤先生に御設計いただきました草薙の総合体育館がグランドオープンして、そして、そこでは、日本の国技であります大相撲が「富士山場所」を開いてくださるといようなことも既に決定しているわけです。

そして、動物園がある。また、大学、英和の女子大がありますし、静岡大学がありますし、それから県立大学がありますし、さらにまた美術館があります、図書館があります。さらにSPACがあります。

そして、ずっと上がっていきますと、日本平のホテルがあります。そして、さらに鉄塔しか建っておりませんが、文字どおりの360度、太平洋に臨み、また、伊豆半島、駿河湾、富士山、南アルプス、もう見はるかすところ360度、これ以上勝る景勝地はないということで、その歌を、遠山さんなどは見事に和歌にされているわけですが、そこが一つの頂点になり、そして、太平洋側に臨みますと、今、県の果樹研究センターがあり、そこは7ヘク

タールぐらいあり、高校2つ分ぐらいです。

そこからロープウェイで、あるいはゴンドラで真っすぐ頂上に5分で上がる。そして、そこには酒井さんの静鉄が待っていて、すぐ久能山東照宮の方に、また5分で往復できる。言ってみれば下から来て、また上の谷を見ながら行ける。久能山東照宮ももちろん入っているわけです。

そして、その久能山東照宮から1,159段を下りて来れば、あるいはそのゴンドラで、今は果樹研究センター、やがてそこはフルーツパーク、あるいは市民の公園になるかと存じますが、そこから少し行くと駿河湾です。そこはイチゴ畑が広がっておりまして、シーズンになりますと、美しいお嬢さんがイチゴ狩りをするためにいろいろと呼び込みをされているということです。

そして、そのまま三保の方に行くと、ぐるっと直角に90度折れれば三保松原ということになるわけです。で、三保松原から富士山に向けての空の玄関口、文字どおり文化あるいは信仰といったものが一体となっている、そういう全体の陸の人間の玄関口が東静岡駅にあります。

そして、静岡からこちらに行きますと、西側はNTTの本当に何の変哲もないビルが建っております。反対側はマンションが建っております。何であのような変なものが建っているのかと思うわけですが、そこに大きな広場がありまして、そこは清水エスパルスという静岡の誇るサッカークラブがありまして、J1です。

その清水エスパルスは、今、御自身のホームグラウンドがあるのですが、2万人ちょっとしか入らず、国際基準になかなか適合しないということで、行き場を探しており、それで私と市長とで、それならば、東静岡の市が所有しているところに150メートル×150メートルのサッカー場をつくろうという案があります。これは市がお決めになるので、どうされるか分からない。

アリーナをつくるという案もありますが、アリーナは内藤先生に、実質上、草薙の総合運動場にそういった室内の体育館をつくっていただきましたので、それができない場合には、東静岡の市の持っている所にバスケットもできるアリーナをつくるということだったのですが、その案は、草薙の総合運動場ができることによって極めて厳しいものだというので、150メートル×150メートルのすばらしい、3万人が入るスタジアムができる、そういう広さがあるのです。

ところが、県側は、グランシップと並んだ所に駐車場になっている所がありますが、一

見、そちらの方が広いようですが、実は狭くて、そこの所の駅を降りる、こちらから行く
と左側に行くと、仮にサッカースタジアム、右側に行くと「文化の殿堂」、グランシップや、
あるいはそこにできるであろう旧東海道、これは江戸時代の東海道ではなくて古代の東海
道が、線路際を10メートルの道幅であった遺構が出ているわけですが、そこからずっと日
本平の方向に向け、そして、やがて三保松原に下りていく、この全体の玄関口のコンセプ
トを考えていただきたい。

ここが、言ってみれば政治あるいは経済の中心地であるとするならば、そちらは「文化
力の拠点」の玄関口だということで、もう勝手な乱開発は許さない。「ポスト東京時代」が
時に話題になりますが、「ポスト県庁所在地」です。「ポスト静岡市」ということで、こ
ういうあまり特徴のないまちではなく——特徴というか、美しさというものに欠けるまちづ
くりではなく、美しい玄関口に入ったと。で、スポーツ、文化というものをそこからずっ
と日本平まで堪能できるような、そういう地域計画を考えています。

後ほど、企画広報部長から、我々が考えるべき全体の範囲について、資料に基づいてお
話しいたしますが、言うまでもなく、一番てっぺんが一番重要で、360度ということは東西
南北が分かるということです。東西南北といっても、東北、東南、西南、西北があります。
そうすると、全部で八つの方角になります。上に行って、どちらが北ですか、どちらが西
ですか、ということが分かることは、非常に大きいです。

東の方向に何が見えた、北の方向に何が見えたということがとても大事で、久能山東照
宮と富士山の関係、久能山東照宮と西の京都の関係、こうしたものは久能山では極めて自
覚的に論じられておりますが、八角形のそういう方向をしっかりと示せば、正に八角形の
建物はすぐ出てきます、「夢殿」ということになります。

夢殿とは、法隆寺の文化財であり、かつ、国宝であると同時に、世界文化遺産です。夢
殿に祀られているのは救世観音です。世を救う観音様で、救世観音が、そこから聖徳太子
があまばせの馬走でおそらく行方不明になった馬の子孫に乗って、そして、三日でその富士山を
従者を連れて巡って三日で都に戻って来た。その救世観音が、聖徳太子が険しい富士山を
登られるのを慈しみの目をもって見られていたということで、正にそこは夢殿というこ
ろがぴったり当てはまる所で、全体として日本平の頂上が、夢の「文化・スポーツの殿堂」
の本当の核心部分です。

日本平でも少し上のところにあります。すぐそのそばに、酒井さんのところの静鉄のロ
ープウェイが来ておりまして、そのロープウェイはもう老朽化しているので、これはやり

替えないといけません。やり替えるときに、同時に下の清水側から来るゴンドラあるいはロープウェイと上手に連結して、人々が両方楽しめる、若しくはどちらかを楽しめる。そして一気に上に立てば、もう全部、日本の美しい景観を手中にすることができるという、そういうものがその頂上に待っているわけです。そういう人間が楽しむための陸の玄関口が、この東静岡駅であります。

そうしたコンセプトで建てるべき建物は、どういうたたずまいでなければならないか、また、どういうコンセプトでそういうものをそこに入れ込まなければならないかというようなことを、是非御高見を賜りましてこれを形として、できれば当初予算に反映させていきたい。当初予算は、来年の2月にそれを組みますので、是非そのときには組みたい。

ですから、皆様方はもうよく御承知のこういう所ですので、会議または個別の意見などを通して、東静岡に文化の殿堂づくりをしていくということで、何とぞよろしく願い申し上げます。

以上です。(拍手)

【企画広報部長】 続きます、本会議の会長の選任ですが、有識者会議設置要綱の規定により、会長は知事が指名することとなっています。大原美術館館長の高階秀爾委員にお願いしています。

高階会長、御挨拶をよろしくお願いいたします。

【高階会長】 高階でございます。

ただいま川勝知事からお話がありまして、この東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議、大変重要な会議の代表という御指名を受けました。全く非力ではありますが、光栄に存じており、皆様の御協力を得て務めていきたいと思っております。

御承知のように、静岡から見る富士山、これは平成25年6月に世界文化遺産に登録されました。世界文化遺産として認められた「富士山の顕著な普遍的価値」は、信仰の対象であると同時に、芸術の源泉であります。古くから人々の信仰を集め、同時に、古代からさまざまな芸術を生み出す源泉となってきました。これは古代万葉集、さらにそれ以後のさまざまな歌、紀行などの文学作品、それから絵画、さらには演劇、さまざまなジャンルの芸術が富士山を基にして生まれております。さらに、神社や建築、建物、そのほかも含めて、人間の文化に大変に大きな影響を与えました。

この静岡からは、世界文化遺産の構成資産となった三保松原や、今お話のあった名勝日本平などの著名な場所からだけではなく、日常の生活の場からも富士山を仰ぎ見ることが

できます。静岡に暮らす人々は、日々、富士山から文化的インスピレーションを受けております。

芸術、文化と申しまして、日本でも文化芸術振興基本法などもございます。いわゆるジャンルとしての絵画、彫刻、建築、文学等々だけではなく、生活の中に根差した優れた文化、静岡の場合に、「お茶」、「食」、「花」、あるいは様々な生活、地域の資源を利用した都づくりに励んでおられる、そのような優れた文化を創造・継承しているところです。

このような静岡の地で、ただ今川勝知事からもお話があったように、「文化力の拠点」、全てを含めた文化の力、これはこれから日本にとってのみならず、世界にとって重要なものだと思います。文化の力の源泉、拠点を形成することは、静岡県民の文化力をさらに磨き上げるとともに、文化力の高さを国内外にアピールし、憧れを呼ぶ日本の理想郷、まさに“ふじのくに”を実現しようというものです。

この有識者会議は、学術、文化・芸術、スポーツの集積エリアである東静岡駅から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域、この土地の「場の力」の最大化を図り、その玄関口となる東静岡地区への「文化力の拠点」の形成に向けて検討を行う目的で設置されたと伺いました。

限られた時間の中ではありますが、それぞれの分野で本当にそうそうたる皆様に知恵を出していただき、そして川勝知事の御趣旨に沿えるよう、それぞれの皆様には忌憚のない御意見を賜りたくお願い申し上げて御挨拶といたします。よろしく願いいたします。（拍手）

【企画広報部長】 どうもありがとうございました。

ここで、本来ですと、委員の皆様方全員を御紹介すべきところですが、時間の都合もありますので、お手元にお配りいたしました委員名簿と座席表をもって代えさせていただきます。県及び静岡市の出席者につきましても、座席表のとおりです。

なお、本日は、荒木委員及び坂委員につきましては、所用により欠席されておりますので、御承知おき願います。

それでは、これからの議事進行は高階会長をお願いいたします。

【高階会長】 それでは、次第に基づきまして議事進行をいたします。

まず始めに、東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議の設置について、事務局から説明をお願いいたします。

【企画広報部長】 それでは、事務局から御説明いたします。ここから失礼ながら座つ

て説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、資料1を御覧ください。

お手元にお配りしました資料1の1ページ、まず、この会議の目的でございますが、本県を代表します学術、文化・芸術、スポーツの関連施設が集積します東静岡駅周辺から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域は、自然にも恵まれ、様々な魅力や高度な知識・情報を発信し、多くの人々を引きつける地域の持つ力、すなわち「場の力」が備わっています。

そこで、この地域の「場の力」の最大化を図るとともに、その玄関口となる東静岡地区への「文化力の拠点」の形成に向けて、各界の有識者の皆様に御検討いただくため、本会議を設置したところです。

次に、協議事項ですが、この会議では、本年度、主に3つの事項について委員の皆様それぞれの御専門の分野や御経験を踏まえた幅広い視点から協議・検討を進めていただきたいと考えています。

3つの事項のうちのみならず1つ目ですが、下の写真の中に緑色のラインで囲んでいる東静岡地区から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域、この地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方についてです。

2点目は、写真の青い丸で囲まれた「玄関口」に当たる東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたまたまを生み出すまちの機能や、統一感あるデザインや、景観など、まちづくりのあり方についてです。

3点目は、写真に赤くお示した東静岡駅南口県有地に整備を予定している「文化力の拠点」となる施設のコンセプトや導入すべき機能等について、それぞれ協議・検討をいただきたいと思っております。

2ページ目を御覧ください。

この有識者会議の今年度のスケジュールですが、本日の第1回会議では3つの協議事項のうちのみならず1つ目、東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方について御協議をいただきたいと存じます。

第2回の会議は、本年12月頃に開催しまして、協議事項の2つ目、東静岡駅周辺のまちづくりのあり方と、3つ目の「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等について御議論いただく予定です。

この2回の会議での御議論をもとに、事務局におきまして東静岡駅周辺地区の「文化力

の拠点」の基本構想の案を作成いたしますので、来年3月に開催します第3回の会議で基本構想（案）について御協議いただき、成案としていきたいと考えています。

なお、27年度につきましても、本有識者会議を継続開催させていただき、本年度取りまとめいただきます「文化力の拠点」の基本構想を踏まえた具体的な整備イメージ等について御検討を賜りたいと考えております。

有識者会議の設置についての説明は以上です。

【高階会長】 ありがとうございました。

続きまして、東静岡地区における「文化力の拠点」の形成について、事務局から説明をお願いします。

【企画広報部長】 続きまして、事務局より御説明申し上げます。お手元の資料2を御覧ください。

広げていただきまして資料2の1ページです。

始めに「東静岡地区における『文化力の拠点』の形成」のうち、東静岡周辺地区が持つ「場の力」についてです。

東静岡駅南側には、古代東海道遺跡があるなど、^{いにしえ}古から東西交通の要衝であり、現在も、新東名、東名、JR東海道本線などが活発な東西交流を支えています。

平成29年度の中部横断自動車道の開通により、山梨、日本海に至る新たな南北交流の活発化が見込まれる中、当該地域は、東西軸、南北軸の交流拠点となることが期待されています。

また、東静岡から日本平に広がる地域は、県立大学や静岡大学などの高等教育機関や、グランシップ、県立美術館、草薙総合運動場などが集積します本県を代表する学術、文化・芸術、スポーツ施設の集積エリアとなっています。

そこで、この地域が持つこうした「場の力」の最大化を図った上で、東静岡駅南側にある県有地2.4ヘクタールを活用して、“ふじのくに”の「文化力の拠点」を整備したいと考えています。

次に、2、「文化力の拠点」のコンセプトイメージです。

これは事務局でたたき台として用意したイメージですが、「創造・発信」、「学ぶ・人づくり」、「出会い・交わる」といった3つの柱で構成しています。

「文化力の拠点」は、魅力があり、憧れられる文化を生み出し、あるいは地域の伝統や生活文化を継承し、それらを国内外に発信する場であり、また、文化を担う人材の育成や

“ふじのくに”ならではの学びを提供する場であり、さらに、国際交流や文化交流を拡大する、魅力ある空間を提供する場としてイメージしているところです。

昨年、信仰の対象と芸術の源泉として世界文化遺産に指定された富士山や、世界農業遺産に認定された伝統的な茶草場農法、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食と切り離せないお茶や和食を支える日本一の食材の宝庫など、世界水準の文化を培ってきた本県の文化力の高さをアピールする拠点として整備していきたいと考えています。

次に、ページの右側、3、「東静岡周辺地区のゾーニングイメージ」を御覧ください。

これもたたき台ですが、名勝日本平に広がる学術、文化などの施設の間では、既にムセイオンをはじめとしてソフト面での連携した取組が進んでいますが、これを一層強化するとともに、遊歩道などのハード面の整備等により、東静岡地区と周辺地区との一体化の強化を図り、東静岡地区におきましては、右下の点線で囲んだ部分に記載しているとおり、日本平に広がる「場の力」を取り込んだ「文化・スポーツの殿堂」にふさわしい洗練された建物の外観や、富士山の眺望に配慮した統一感あるまちづくりをイメージしています。

そして、東静岡駅の南側の県有地には、中段に四角で囲みましたように、「文化力の拠点」として“ふじのくに”の文化を磨き、高め、国内外に発信する機能、大学コンソーシアムや図書館、ホテルやレストラン、展望ルーム、国際交流機能などの導入をイメージしているところです。

次に、資料の2ページをお開きください。

これは静岡市上空から富士山方向を撮影した航空写真に、この地域に集積する学術、文化・芸術、スポーツ関連施設を落としたものです。

御覧のとおり、当地域は富士山の眺望が、晴れていれば大変すばらしい地域です。右側に広がります日本平周辺地域には、富士山をはじめ周囲360度を見渡すことのできる日本平山頂があり、山麓には大学、美術館、舞台芸術公園、総合運動場、地球環境史ミュージアムなどの学術、文化・芸術、スポーツ施設があります。

また、日本平地域の先には、富士山世界文化遺産の構成資産でもある三保松原をはじめとする三保地区が広がっています。

次に、資料の3ページをお開きください。

東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」のイメージのたたき台です。駅を挟んで北側、資料では左側にあります静岡市有地と、南側、資料の右下の県有地に整備する施設を核として、「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい地域となるよう、富士山の眺望や美しい景観

への配慮、建築物の高さ、色彩、デザインの統一、駅南北の連携などの視点を踏まえた、統一感あるまちづくりをイメージしています。

資料の4ページを御覧ください。

先ほどの航空写真で御説明しました施設等を地図上に落としたものです。中央に緑色で色付けをした部分が、山頂に日本平があり、山麓には学術、文化・芸術、スポーツの関連施設が集積する日本平周辺地区で、右側の緑色のエリアが富士山世界文化遺産の構成資産として普遍的な価値を持ち、また、富士山の雄大な姿の全容を一望できる三保松原がある三保地区、そして、この日本平周辺と、さらには三保地区へつながる玄関口として東静岡地区が紫色に色付けをされた所です。

これらの3つのエリアが有機的に連携することにより、新たな魅力が生まれ、交流が深まり、この地域の持つ「場の力」が飛躍的に高まるものと考えています。

次に、資料の5ページをお開きください。

現在、日本平を含む東静岡駅周辺地区では、ソフト面から「場の力」を高める様々な取組が展開されています。6つの文化関連施設が連携した「ムセイオン静岡」の取組、公立や民間の垣根を越えた「有度山フレンドシップ協定」による施設間の連携の取組、大学間や大学と地域との連携を深める「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の取組、そして、「しずおか防災コンソーシアム」による「ふじのくに防災学講座」など危機管理への取組などが展開されています。東静岡地区に整備する「文化力の拠点」におきましては、これらの連携事業を支援・強化する機能も整備していきたいと考えています。

最後に、資料の6ページをお開きください。

本県で進めています全県的な「場の力」を高める取組についてです。まず、本県の地域資源を活かした「“ふじのくに”の都づくり」の取組として、「お茶」、「食」、「花」といった、静岡県が誇る魅力に一層の磨きをかける取組をしています。

また、世界遺産富士山に関連した取組としまして、保存管理戦略の策定や世界遺産センターの整備、眺望改善に向けた取組などを進めているところです。東静岡地区には、こうした全県的な取組も後押しできる「文化力の拠点」を整備していきたいと考えています。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

【高階会長】 それでは、次に静岡県の文化振興施策について、事務局から説明をお願いします。

【文化・観光部長】 それでは、引き続きまして事務局から御説明申し上げます。お手

元の資料3を御覧ください。

本県が文化振興施策を進める上で基本となる計画、「ふじのくに文化振興基本計画」について御説明いたします。

本県では、平成20年3月から文化振興基本計画を策定し、これに基づき文化を「見る」「つくる」「ささえる」人を育て、「ふじのくに芸術回廊」の実現を通じて、感性豊かな地域社会の形成を目指していくこととしています。

現在の計画、今年度から平成29年度までを計画期間とする第3期計画では、左下に特長として記載していますが、文化の範囲を幅広く捉え、芸術・文化だけでなく、衣食住にまつわる生活文化なども対象とするとともに、地域の活性化や産業振興など、様々な分野で発揮される文化の力に着目して、「文化力の地域づくりへの活用」を加えた6つの重点施策を中心に取組を進めています。

今後は、文化の力、「文化力」を地域づくりに活用するためには、県民が多彩な文化・芸術に接する機会を提供するとともに、魅力溢れ、憧れられる文化・芸術の創造・発信活動を支援することで、文化の土壌をより厚いものとし、さらには、関連する様々な分野の人や組織等とのネットワークの形成や人材育成などの新たな施策にも積極的に取り組んでいきます。

そうした中で、東静岡にありますグランシップ、舞台芸術公園、県立美術館、いずれも本県の文化振興施策推進の拠点として重要な役割を果たしています。

次のページを御覧ください。

まず、グランシップにおきましては、静岡県文化財団による親子で楽しめる世界の児童演劇や伝統芸能の鑑賞事業など、質の高い本物の文化に触れる機会を提供するとともに、グランシップ内にあります舞台芸術劇場では、SPACによる世界的な舞台芸術作品の創造・発信活動が行われています。

また、有度山の中腹にあります舞台芸術公園では、野外劇場や稽古場などの施設を備え、発表や人材育成の場として活用されるとともに、公園として県民に利用されています。

さらに、県立美術館におきましては、風景や富士山を題材とする絵画、ロダンの彫刻作品といった収蔵品を活用した展覧会や、多彩な教育普及事業などが展開されています。

加えて、この地域におきましては、現在、旧静岡南高の校舎を改修し、地球環境史ミュージアムの平成27年度中の開設に向け準備を進めています。この度、文部科学省の「地(知)の拠点事業」に採択された県立大学などとも連携して、文理融合による新しい地域学の展

開を図っていくこととしています。

説明は以上です。よろしくお願いします。

【高階会長】 では、最後に、静岡市の取組等について説明をお願いします。

【静岡市】 静岡市の企画局長の加藤です。私からは、東静岡駅の市有地の利活用の検討状況について御説明させていただきます。

資料4を御覧ください。当地区は、現在までいろいろなことがありました。様々な紆余曲折がありましたが、田辺市長が就任後の動きについて説明させていただきます。

まず、24年の11月には、当地区の利活用コンペを実施したところです。キーワードは「文化の発信」、「にぎわいの創出」、「防災機能の強化」ということで募集したところ、全国から31件の提案がありました。

それらの提案を、今度は25年5月ですが、市民の皆さんに広く御案内しようということで、オープンハウスを実施したところです。これにつきましては、中心市街地やMARK IS 静岡などの商業施設の2カ所にて10日間実施しました。そこでまた市民から意見を募集したところです。合計で617件の市民の意見がありました。

この31の作品を、高度利用、例えば高層ビルというものの集団と、中密度利用、アリーナ、スタジアム、文化会館等、そういう集団と、公園といった低密度利用に分けて、それぞれ意見を確認したところです。そういった中で一番多かったのが、アリーナ・スタジアム機能で、263件の御意見が寄せられたところです。

参考のところを見てください。その後、26年5月には、静岡市の体育協会から東静岡地区市有地への多目的アリーナ建設への要望書が提出されました。また、7月には、清水エスパルスから新スタジアム建設に係る要望書が提出されたところです。そして、同7月には、静岡市のサッカー協会から東静岡地区のスタジアム建設の要望があったところです。

それらを踏まえまして、現在、26年9月3日からですが、静岡市の第三次総合計画骨子（案）という形でパブリックコメントを実施しているところです。その中で、この東静岡地区の表現は「文化・スポーツの殿堂」という表現にとどめています。というのも、ここにつきましては、このような要望を踏まえ、それらの施設についての財源の確保や、民間活力の導入、また、県施設との一体感・統一感ということで、まだまだ議論が必要ということで、このような表現にとどめたところです。

説明は以上です。

【高階会長】 ありがとうございました。

それでは、これより各委員、意見交換に入らせていただきます。

ただ今事務局から、本有識者会議の設置、東静岡地区の状況、静岡県の文化振興施策について、また、静岡市からも、市の取組等についての説明がありました。

先ほど、事務局から説明のありましたとおり、本会議では、大きく3つの論点があります。第1回会議は、まずは東静岡から名勝日本平に至る、さらには久能山や三保松原まで広がるこの区域が有する「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方について議論したいと思います。この問題について、委員の皆様から御自由な形で御発言をお願いします。どなたからでも結構です。

【芳賀委員】 大変結構な御説明で、ありがとうございます。

しかし、一番初歩的な、基本的なことを伺うと、「文化力の拠点」と言っていますが「文化力」とは何ですか？「文化の拠点」とは違うのですか？「文化の拠点」と言うともうできてしまった文化、「文化力」と言うところから発展していく文化という感じですか？

それから、「場の力」、これもよく使われていますが、これは、土地に一種の霊力があって、ゲニウスロキという、それを活用しようということですか？それと結びつけての「文化力」ですか？前に、河合隼雄さんが文化庁長官の頃に「文化力」という言葉をつくりましたが、それですか？「文化」と「文化力」の違いが分かりません。

【川勝知事】 「軍事」と「軍事力」が違う。あるいは「経済」と「経済力」が違うということです。

【芳賀委員】 「学問」と「学力」は違う。(笑)

【川勝知事】 そんなわけです。その程度です。ですから、今まで戦前には軍事力をつけようとした。戦後は経済力をつけようとした。しかし、どこにも文化はあるわけですが、自覚的にその文化の持っている潜在的な力を出していこうということなのです。

もう一つの「場の力」ということですが、これは「馬力」と言ったら、通常は馬の力、horse powerを言います。これは、人の力の代わりに馬とか機械の力を借りて、1人当たりの生産力を伸ばしていくというものです。

日本人は、大地に聞いて、この大地が最もふさわしいものを、声なき声を聞く、石の声に従って石を置くという、この作庭記あたりからのそうした考え方で、土地の持っている潜在力を発揮させる。それは、今、先生がおっしゃったような、場の持っている地霊といえますか、こうしたものにも敬意を払う。実際、我々は何か建物を建てる時に、必ずその地の霊に対して霊を鎮めるために、また、御加護を願うために、必ず神事をしますが、

それも「場の力」というものがあると信じているからだと思います。

【芳賀委員】 では、東静岡駅のあの南側だか北側、あの辺はどういう「場の力」があるのですか？ 昔、東海道があったということですか？

【川勝知事】 はい。「声なき声」ですから、これを聞き出していただくのが——聞けないわけです。ですから、声なき声を、形なき形をそこからイメージーションしていくというのが、日本の正に得意芸だろうと思っております。

【高階会長】 それでは、ほかに次にどなたでも、いかがでしょう。

【芳賀委員】 東静岡駅のあの辺は、もともとは何の場所だったのですか？ 田んぼですか？ 湿地帯ですか？ その中を徳川時代、江戸時代まで東海道が抜けていたわけですか？ もとは湿地帯だったのではないですか？

【寒竹委員】 私が考えるに、隣に相模湾があって、東京湾があります。この駿河湾の特徴が、古代の時代にこの部分がすごく頑丈だったのではないかと思うのです。

【芳賀委員】 何だった？

【寒竹委員】 頑丈である。だから、川がないです。この辺りに川が流れ込んできていないのに、静岡平野という適度の大きさで平野があるわけです。関東平野のようにばかでかくなく、濃尾平野のようにばかでかくなく、ということは、あの辺は川が流れ込んで来ていますから、基本的にそういう所を古代東海道は多分通らないはずです。船になるか、陸地を通るかというところで、多分、この場所の「場の力」は、海に近い所に、ある程度、頑丈な地盤があって、そこを日本平のすぐ内側、海の近くを古代道が走っているという、それはその時代にはすごく安全というか、そういう場所であったと思います。

【芳賀委員】 古代からあの道はあったのですか？

【寒竹委員】 古代の道です。

【芳賀委員】 私は、湿地帯なので、グランシップなどという名前にしたのかと思いました。(笑)

【寒竹委員】 古代道があった場所ですから、そういう場所には、場所性があるのではないのでしょうか。

日本平という、「日本」という名称がついているところは、日本にはありません。

【芳賀委員】 あれは日本武尊だからでしょう。

【寒竹委員】 多分、聖徳太子ぐらいのときから「日本」という、「^{にほん}日本」ですね、そういうものを使い始めて、日本武尊は「日本」と書いて「やまと」です。

【芳賀委員】 そう。あれは聖徳太子よりは日本武尊の方ではないのですか？ 焼津も、草薙も。

【寒竹委員】 「やまと」と呼ばずに何故「にほん」と読んだかと私が考えるには、結局、「やまと」という小さな中心でこの国を考えるのではなくて、日ノ本^{ひのもと}という、隋に対する一つのまとまりとしての空間として「日本^{にほん}」というものを聖徳太子は使ったのではないかと思います。私は歴史家ではないからよく分かりませんが、「にほん」という言葉自体は、日本武尊というよりは聖徳太子という方向につながっていくのかなと思います。

【芳賀委員】 でも、日本武尊のほうが神話でもっと古いですよ。

【寒竹委員】 古いですよ。

【高階会長】 焼津、草薙、それは歴史の遺産というものがずっとそこにあっただけでしょうし、記憶がある。同時に、場所、今あった地形の問題と、それから最初に説明があったように、今や高速道路が走り、南北、東西の新しい交通道路があつて、人々はそこに集まってくる、あるいは通る場所にもなっているわけです。その意味も大きいと思います。

東さん、どうぞ。

【東委員】 つい最近ですが、日本平のことについていろいろ調べました。「日本平^{にほんだいら}」という名前がついたのは、大正時代、徳富蘇峰^{とくとみそほう}がこの名前を広めたという記述がありました。「日本平^{にほんだいら}」という名前は近年のもので、その前は有度山^{うどやま}とっておりました。

【芳賀委員】 徳富蘇峰が、やはり聖徳太子よりは日本武尊を考えて……。

【東委員】 先ほど知事がおっしゃったように、360度のパノラマの大変美しい風景、富士山が眺望できます。

【芳賀委員】 もちろん、美しい風景であることに、そこに「日本^{にほん}」という名前をつけたのは……。

【東委員】 そこに登ると日本全体を見下ろすような、そういった風景からだといわれています。

【芳賀委員】 それはもちろんそうだけれども、しかし、「日本^{にほん}」と名乗ったのは、日本武尊の方であつて、聖徳太子ではないのではないか。

【東委員】 聖徳太子はちょっと存じませんが、「日本平^{にほんだいら}」という命名がそういったところからあつたという事実はありました。

【遠山委員】 時間もあまりないので、要求されている主題に少し近いことを申し上げたいと思います。

先ほど、文化拠点といいますか、各地にあるいろいろな施設を2時間ほどかけて拝見して来ました。私はやはり、この静岡が文化ということを取り上げて、ここに「文化力」という形で明確な特色を出そうとしていることに賛成です。

静岡県は、東の方は医療ですとか、遺伝研とかいろいろあります。西の方は理工系。ちょうどぽっかり空いていたのが静岡でして、そこを「文化」という角度で整備しようということは、私は賛成です。

先ほど行ってまいりまして、ここはやはり東静岡のあの空気を拠点として、日本平の山頂に至るまでの間を「文化の丘」というような形で明確に位置付けられたら良いと思うのです。名称はもう少し良く考えられたら良いと思いますが、今、あちこちにそれぞれの施設がありますが、それは「点」であって、今後、それを「線」でつないでいって、さらに「面」にしていく必要があるのではないかと思います。そのところは、例えば街路樹を植えるとか、もっと魅力的な何かをする云々の細かい具体的なことをやったら良いと思いますが、「文化の丘」という形で発想しようということは賛成です。

その際に二つ、私はこれまでにあまり取り上げられなかったこととして申し上げますと、一つは、静岡はやはり海の恵み、山の恵み、大地の恵みに大変恵まれた、全国でも数少ない食文化の豊かな県ですから、その恵みそのものを集約できるような、そういう施設なり、あるいはコンセプトなりが一つ成り立つと思います。

それからもう一つは、縦軸としての歴史、それは登呂遺跡とか、古事記とか、あるいは万葉集とか、それ以後も東海道をめぐる様々な歴史上の出来事があり、特に家康公の存在、そして駿府、久能山東照宮、そして廃藩置県後の静岡という歴史を大事にした、あるいは歴史についてより鮮明に研究をし、それらを一大絵巻にするような、そういう展示の施設もあってもいいのかもしれない。

その大地の恵みをはじめとして、恵みの豊かさを文化の一つとして捉えること、それから、歴史の観点を捉えることを、様々な御意見の中の一つつに入れていただけたらと思います。

【高階会長】 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょう。御意見、いろいろ積極的に何か。

どうぞ。

【後藤委員】 まだ私も十分にこの問題点が把握できていないといいたいでしょうか、自分の頭の中も整理できていないのですが、基本的な考え方としては、静岡は、いろいろな条

件からみて、東京や大阪、名古屋のような大都市と同じことをやっても無理だと思うので
す。

ですから、静岡らしさといいますか、今、遠山先生のお話にもございましたが、個性と
か特徴のある発想というものを持つてくる必要があるだと思います。規模が大きいとか、
お金がすごくかかっているとか、そういうことではない切り口を大事にしていく事が必要
ではないかと思ひます。

今、私たちがここに住んでいて、この後、静岡市のアリーナ構想とか、他にもいろい
ろな、ある程度具体化しそうな構想がありますが、そういう中で、逆に何が欲しいのか、も
し求めるとしたら何があるのかということをお考えますと、経済界から見た大きな課題は、
少子化の問題なのです。子供さんが本当に喜んで将来に夢を持って、希望を持って成長し
ていく、これから本当にすごく難しい時代になっていく中で、何か子供たちを我々が応援
してあげられるといいましようか、そういう施設とか、あるいは環境とか、決して建物を
つくるといふことだけではなくて、そういうものができたら素晴らしいと。できることな
らば、お母さん方が、こういう施設があるのならば、そういうところで子供を産んで育て
てみたい気持ちにさせるようなものがあると、我々としては本当に願ったり叶ったりだ
なと思ひます。

この中にも、例えば日本平動物園など、子供向けの施設もないわけではございませんが、
静岡は子供を大事にしているのだということが伝わるようなものを考えてもらうとありが
たい気がします。では、具体的に何かというと、そこまで今、私も整理できていないので、
言いつばなしの話で申しわけないですが、そのような気がしています。

【高階会長】 ありがとうございました。

ほかに。どうぞ。

【酒井委員】 酒井です。

今日は第1回目であり、「場の力」の最大化ということですが、だんだん進んでい
きますと、最終的には県の土地をどうするかといったところまで行くわけですが、県の土
地ではあります、静岡市にあるわけですので、やはりこのエリアの静岡市のコンセプト
とか開発の方向性との整合性は、当然、とっていかねなければならないということですので、
せつかくの良い機会ですので、今、三次総でまとめていただいている静岡市の計画のこの
エリアに関しては、ある程度具体的なことを入れていただいた方が話が進みやすいのかな
と思ひます。市と県と整合性をとる形で議論していくことをきつと市民も求めているので

はないかと、そういう感じを持っておりますので、まず一つは市との関連性を意識して議論したいというのがあります。

もう一つは、これは先ほど遠山先生がおっしゃったことを、私も今日、申し上げようと思っただけなのですが、正に三保松原まで広がるエリアは、まだ本当に「点」でありまして、それを「線」にして「面」にするのは、とても大事なことです。

私も全国全てを知っているわけではありませんが、自分が行った所でこれは「線」になっているな、「面」に広がっているなという所は、やはり偶然、「線」や「面」になったわけではなく、ある程度意図的に「線」なり「面」に持っていつているような部分があると思います。

例えば、このエリアで申し上げますと、日本平と三保の間は、まだ「線」にはなっていない。例えば清水港の日の出エリアがあつたりとか、そういったものをどう「線」としてつないでいき、最終的に「面」につなげていくかということを経験しながらやっていくことが「場の力」につながるのではないかという気がしています。

以上、遠山先生と全く同じ内容ですが申し上げます。

【高階会長】 重要な御提案だと思います。

ほかにかがでございましょう。

どうぞ、石塚委員。

【石塚委員】 これを考えると、やはり静岡県の地政学的な優位性みたいなものは前提にした方が良いでしょうと思います。

何が良いのかというと、一つは関東と、中京と、関西の間に静岡県が位置しており、そういう面では非常に交通の利便が良い立地にある、したがって、時間、距離も含めて、静岡県だけでなく、外のエリアの人たちも含めて、そういう人たちをどういうふうに来ていただくかというようなことも頭の中に入れながら計画をつくったら良いのではないかと思います。

それからもう一点は、農業とか漁業、山の幸、海の幸に非常に恵まれているということなのですが、どうも現在の地球温暖化という中で、世界の穀倉地帯で降雨量がどんどん減ってきている傾向があるようでして、実際にアメリカのテキサスだとかあの辺の穀物地帯が大分雨が少なくなってきて牛を売っているみたいな話がありますし、それからオーストラリアも牛が減っているというような話があり、また、中国では砂漠化が進んでいるという情報もあるので、そういう意味で、日本のこれからの農業が注目される時代が来るのだ

ろうと思います。

そういう意味で、農業、漁業とか、そういうものをうまく取り込んでいくというようなことも考えていかれたら良いのではないかと思います。

【高階会長】 ありがとうございます。

ほかにどうでしょう。

【木苗委員】 静岡県立大学の木苗です。

私は、以前、静岡商工会議所の後藤会頭をお願いして、商工会議所の役員会で静岡市への期待というテーマでお話しさせていただきました。先ほど酒井委員から「線」という発言がありましたが、今、静岡について考えても、さて何があるだろうかという感じがするのです。確かに、知事がおっしゃられるように静岡はお茶の都なのですが、しかし、静岡駅に降りてもお茶の香りがしない。静岡市内には数大学があり、登呂遺跡もあり、久能山東照宮、駿府城公園もありますが、それらが静岡駅を降りても全く紹介もされていない、見えないという現状を改善できないだろうか、商工会議所の皆様をお願いしました。

さて、東静岡駅についてですが、駅周辺には、本日出席されている伊東学長の静岡大学、英和学院大学と短大、東海大学と短大、そして静岡県立大学と短大と、この地域には学生が一万数千人いるのです。やはりそれを活かさない手はないということと、もう一つは、留学生が県立大学だけでも百数十人いますし、静岡大学にも二百数十人と、まとまった数の留学生がいるのです。そういう中で、いろいろなことを考えて、若い人をどこかに取り込んで活動していくというようにしないといけないのではないのでしょうか。本学はCOC (Center of Community) 事業に本年度採択されました。地域のエンジンとして働くのは、どうしても大学やそこで学ぶ学生だということ考えると、所属大学や学部を問わず、学生が集う場所をつくる、あるいは学ぶ場をつくることも必要です。先ほど来、「場の力」とありましたが、いろいろなところでの「場の力」が活かせるような一大拠点をつくと良いと思います。

では静岡駅周辺はどうなってしまうのかなという心配もありますが、いずれにしても東静岡駅は日本平、久能山、それから三保の方まで含めると、ものすごいいろいろなものが隠れていると言いますか、掘り起こせば多くのものが出てくると思います。

それからもう一つは、こちらに芳賀先生もいらっしゃいますが、我々が活動している「ムセイオン静岡」もものすごいパワーを持っています。ですから、これも是非取り込んでいただければと思います。「ムセイオン静岡」の拠点である有度地区は、今、人口が増加傾向

にあります。県や市の人口が減少傾向にある中では珍しいことですが、それだけ、この地区が魅力的だとも言えます。現在、私は草薙地区の活性化に関する委員を務めており、つい先日の会議でも、どうやってこれからさらに発展させようかと皆さん、非常に明るく考えているのです。ですから、若い人の力も借りながら前向きに考えていったらどうか、そんなふうに思いました。

【高階会長】 ありがとうございます。

ほかに。

大学コンソーシアムの伊東さん、お願いします。

【伊東委員】 そうですね、若い人の力を借りながらというのは、それも賛成なのですが、まず、「文化力」と言ったときに、その力を誰のためにどういうふうに発揮するのかというのを、まずイメージしたいと思ったのです。

それで、考えられるのは、その力によって県外からたくさんの観光客に来てもらうのもあり得るだろうし、本当は移住して欲しいというものもあるだろうし、それから、その力によって県内の人たちが豊かになることもあるわけです。それを、どれを、どのくらい意識してやるのかは、私も本当にまだイメージが定まっていないところなのです。

その中で、一応、大学の関係者として申し上げると、若い人の力を使って欲しいというのとほぼ一体なのですが、若い人が学べる環境、静岡だからこそこういう学びができるみたいなの、そういうことが実現できると良いのかなと思います。

【芳賀委員】 大学コンソーシアムは、何か独立したスペースを持っているのですか？

【伊東委員】 持っていません。

【芳賀委員】 まだ組織だけですか？

【伊東委員】 事務局がもくせい会館の中にあるくらいです。

【芳賀委員】 そこに入れば良いのかな。

【伊東委員】 そうです。

【芳賀委員】 そうすると、若い人が集まるでしょう。それから、いろいろなセミナーや講演会、シンポジウムをそこで大学コンソーシアム主催でできるわけです。

【伊東委員】 コンソーシアムでやるようなことは、そこを使ってやることはできます。

【芳賀委員】 フロア二つぐらい使って。

【伊東委員】 はい。で、コンソーシアムの中に放送大学もメンバーに入っているのです。放送大学は今、静岡教育センターは三島が本部で、静岡市内には、今、どこにあるの

ですか。

【木苗委員】 今、全部、三島に集中していると思うのですが。

【伊東委員】 ですが、多分、放送大学としても静岡に拠点が欲しいのです。コンソーシアムとして利用できるような所があれば、放送大学なども一緒に活用できるのかなと思います。

【高階会長】 ありがとうございます。

ほかに。どうぞ、岩崎委員。

【岩崎委員】 私も、経済人としての立場で申し上げたいと思うのですが、先ほどの「場の力」というのが一つのキーワードで出てきました。私ども、やはり「場の力」とは潜在力だろうと思うのです。

この東静岡の持っている潜在力とは一体何だろうか。端的に申し上げれば、駅の近くで未開発の土地がある、この視点は絶対忘れてはいけないことだと思います。これはなかなかほかの所で持ち得ない力であろうと、現実的な力であろうと思います。もちろん、発想を広げて、「点」を「線」にして、「面」にして、日本平と三保とつなげるという発想はもちろん大事なのですが、本当にそういう発想を持つ人がどのくらいいるか。私は、必ずしも多くないと思っています。

むしろ、駅の近くに未利用の土地がある、この土地をどう活用して、誰のために役立てるのかということをやはり視点としてはっきり持った方が良いと思います。

つつい経済人はこういうふう考えるものでして、まずそこから発想したいと思います。やはりこれは、静岡市が県都でありますし、中核性を持った、あるいは求心力を持った場所でなくてはならないと思っていますので、それは県内だけではなくて、あるいは今後、東京圏からの移住を促すという意味においても、やはりどういう機能を持っていないといけないのかという辺りをしっかり考えた上で、もしハードをつくるならば、それに適したようなハードをつくっていきまないと、結局、箱物で終わってしまうことになってしますので、だから、その辺りをしっかり考えていきたいと思っています。

【高階会長】 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

では、まず内藤委員。

【内藤委員】 私が今日申し上げたいのは、都市間競争の時代に入ってきているということです。東京では、都市再生特区を中心に、この規模の計画がたくさん出てきています。

代表的なのは、品川の再開発、これからJR東海がリニアの発着駅を作ることになっていきます。がやられますが、それから豊洲、今度は横浜の埠頭でこのぐらいの規模のものが始まります。そうすると、そういうものと比較して、ここが本当に「場の力」をどうやってつくったら良いのかという話が起きてくると思います。

というわけで、ここだけを見ていないで、事務局には御苦労ですが、ほかの計画はどんなものがあるのか少し見ながら、「勝てる計画」にしなければいけないのかなと思っています。

例えば、都市再生特区制度をここでどう使うかということもあるかもしれないし、安倍内閣が立ち上げた国家戦略特区をここでやるということもあるかもしれない。県と市がそろい踏みでこれだけの計画をやっているというのは、あまり聞かない。大体、県と市は一般的には仲が悪いのです。(笑) だけれども、こういう形で進んでいるのは、おそらくないと思いますので、何かその大きい構想を、知事が言われるように「文化」ということを掲げて、何か思い切ったアイデアがあっても良いのかなと思いました。

それともう一つ、私も広域計画、このぐらいの計画にかかわることが多くなってきたので申し上げると、真面目な計画論をやると大体駄目です。多少やくざな、不真面目な感じがないと、まちは滅びる。特に都市計画制度を積み上げていったり、いろいろ行政的な仕組みをコツコツと積み上げていくと、大体、まちは滅びます。やはり私たちの予想を超えて世の中が変わっていくということを考えれば、多少やくざな計画でいいのではないかと私は思っています。

【高階会長】 東委員。

【東委員】 東海大学の東です。

今日、協議事項①ということで、大変広域的なという話が出ていますが、このエリアは、自分が仕事をしてきたエリアであります。静岡市で大変緑が残された地域です。合併前も、この有度山の所が風致地区であったことから、両市の真ん中にある残された緑として存在しています。また、この度、三保松原も富士山世界遺産登録が成しえました。そのときにも、山原^{やんぼら}が風致地区だったからこそ、この美しい富士山の風景を今見ることができます。他都市では、市街地に近い丘陵ですと宅地開発が行われています。ですが、静岡の先人たちが賢かったのだと思います。私たちの美しい風景のためにこの緑を残してくれたと、私はずっとこの静岡に来てから思っております。

そのようなことでは、この三保松原を含めます「緑のネットワーク」づくりを考えてい

けるチャンスが来たのだと思っております。この「緑の力」は、地球温暖化に対しまして、CO₂削減であったり、環境問題への対応、それから防災であったり、景観問題、そしてレクリエーションの機能を持ち、場にもなります。

そういった観点から、この「緑」という切り口でこのエリアをもう一回、今、「点」ではありませんが、「線」として結ぶ、「面」として結ぶことを考えていければ魅力的な場が形成できると思います。また、特に三保松原は、今、大変大きな課題を抱えています。そのことも踏まえ、「緑」の機能を活かしてつなぐことを考えていきたいと思っている次第です。

また、先ほど遠山先生が「海の恵み」ということで、私は、海洋学部にも所属しますので、この駿河湾の研究をしている研究者がたくさんいます。また、学生もいますので、是非そういった視点もここに盛り込んでいただけたらと思っています。また、学生も共に、県立大学、静岡大学と一緒に連携して是非是非参画させていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

【高階会長】 それでは、芳賀さん。

【芳賀委員】 県立美術館の芳賀です。一番最初に川勝知事が日本平の夢殿構想をお話しになられまして、あそこは日本平のてっぺんです。それならば、ここの東静岡のところは夢殿ホール、日本平の方は上夢殿、こちらは下夢殿で、そして、ホールの上の方は正に八角形で良いです。そういうホールを建てて夢殿ホール、あるいは下夢殿とする。

そして、その中に、先ほど後藤さんがおっしゃたように、少子化で子供が大事だと。だから、子供が来て遊ぶような美術館、図書館、それから静岡はいろいろおもちゃをたくさんつくっている、ああいう施設が入ってきて、子供たちが一日中遊んで、学校へ行くよりもあそこの方が面白いというふうにする。

それから、先ほどから有度山の方のムセイオンも、なかなかそれぞれお互いに協力は合っていますが、まだもっともっと本当は協力したいのです。ところが、やはりなかなかそれが難しい。

ですから、この夢殿ホールにかなりの有度山の方の機能も、例えば図書館、あれも非常に古い建物です。しかし、非常にたくさん良い書物を持っています。それから司書たちがとても親切で、何でも探してくれます。探すと、案外いろいろな本があるのです。だから、有度山の方は、図書の収蔵庫にして新しい図書館を。

少子化と同時に高齢化が進んでいるわけですから、老人もここに来る、しばしば子供たちと老人たちが一緒になる。その老人たちが今は、県立図書館まで歩いて上って行く。ある

いはバスで行く。非常に不便なバスで行く。あれは何か非常に気の毒で、だから、もっと図書館の機能の、殊に目の前に出ている最近のベストセラーなどは、そのままを夢殿ホールに移してしまう。そして、向こうは収蔵庫にする。収蔵庫から借りたいような本があれば、30分もあればさっところちに届く、そんなシステムならできるでしょうから、そんなふうにして、かなりムセイオンの方の機能もこの下に移す。

美術館もかなり古くなっていますので、この際、夢殿ホールに2フロアぐらいいたいて、向こうは収蔵庫にして移れば良い。上の方には大学コンソーシアムもある。

それからさらに上、一番上の八角堂には展望ホールがあって、静岡のいろいろな美味しい食べ物、それからコーヒー、アイスクリーム、そういうものが提供できる。そして、周りを見ながら2時間いても良い、3時間いても良いというような。そして、下りてくると図書館もある。美術館もある。それから大学コンソーシアムもある。子供たちがキャーキャー言っている1フロアが一面にある。おもちゃも、本も、絵も、みんなそこへ出ている。そこに老人が来ても良い。そんなふうにやりましょう。

もう一つ言えば、やはり有度山の日本平の方は、先ほども我々、バスで上って行って、それでバスで下りてきたのですが、日本平のてっぺんから東静岡までロープウェイを是非。県立美術館とか、動物園とか、図書館とか、県立大学、あの辺に途中駅をつくり、それから終点がグランシップでも良い。それがあれば、非常にありがたい。もう一つは、三保松原の方に下りていく。そういうロープウェイをつくるのが一番、遠山さんの言う「点」が存在して、なかなか一気に「面」にすることは難しい。だから、ロープウェイを使ってあちこちをつないでいく。お金は確かにかかるけれども、非常に効果はある。夢から夢へと。上夢殿から下夢殿へと。

【高階会長】 という夢も出てまいりました。

【藤田委員】 静岡県の中部地区で和食店を経営しております、なすびの藤田と申します。

年間、県外からのお客様が、今、5万人ほどお出かけいただいているということです。そういった中で、いろいろなお声を聞いています。食と観光業、この二つに携わっている立場から、少し御意見させていただければと思います。

東静岡を「文化力の拠点」と考えるのであれば、私は二つのことが必要ではないかと思えます。

まず、先ほど知事からもお話がございましたが、日本平、この整備をどういうふうにする

るかということですが、夢殿の役割は非常に大きいのではないかと思います。どれだけ魅力的で、世界から人が呼べるようなものをつくることができるか。すばらしい景色があって、久能山もあって、ホテルもある。この魅力を最大限に引き出しながら、行ってみたい、あるいは憧れになるような、夢殿を中心とした日本平の山頂というものができることによって、その周辺、この地域一帯にある文化施設や、芸術施設、こういったものの位置付けももっと上がってくるのではないかと思います。

それともう一つは、先ほどからお話が出ていますが、「点」と「点」を「線」で結ぶという切り口の中で、「脱^{だつぐるま}車」が一つのキーワードにはならないのかなど。いかにこの地域一帯を車なしで、どの世代の方でも、どの国の方たちでも、楽しみながら移動できる仕掛けができればと思います。

例えば東静岡を拠点にLR Tであったり、知事がさっきおっしゃったゴンドラであったり、あるいは例えば辻馬車とか、バスとか、そういったものをいろいろ組み合わせながら、途中途中、文化、芸術の拠点に触れながら食も楽しんで富士山も見られる、そういったふうに「点」と「点」が結ばれてくれば、今以上にいろいろな施設間の連携ももっともって盛んになってくると思いますし、また、人の交流も進んでくるのではないかと思います。

日本平の魅力を夢殿で最大限に引き出して、東静岡を拠点に観光のお客様も、あるいは住んでいらっしゃる方たちも自由に回遊できるような仕掛けがこの地域一帯では必要なかなと思います。

以上です。

【高階会長】 ありがとうございました。

【中西委員】 静岡銀行の中西です。

知事がおっしゃっているように、「文化の拠点」は本当に必要なことではないかと思うのですが、経済的に見ますと、先ほどから後藤さんが言っていたように、あそこで子育てができるかとか老人が集まるだとかいろいろ形をつくっていくことは、地域のためにそういったものをつくっていくことと、それから、ここを拠点にして観光の一大拠点にしていくのだという、面をつくりながら人を集めていくのだということになると、「文化の拠点」としていく「文化」とは何なのだ、誰に発信しているのだと、先ほど伊東先生もおっしゃったのですが、何に向かって発信していくのだということのを少し詰めていかないと、いろいろな意見が分散してしまうのではないかという気がするのと、お金のかけ方、それから経済的効果も、それによって何を求めていくかということとは全然違ってくるのではないかと

思います。そんなことを、今、思って、話を聞いていました。

【高階会長】 どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょう。いろいろ委員の皆様からの御指摘もあって、それを踏まえてさらに触発されることがあれば、お願いしたいのですが、いかがですか。

一つ、私からも、これはむしろ知事にとりか、県の方か、あるいは皆様にお伺いしたい。

我々の今日の役割、正に東静岡から名勝日本平に至る、さらには久能山や三保まで視野に入れたこの区域、正に「場の力」、それをどうやって引き出し、かつ、それを人々に訴えていくかということがもちろん非常に重要な問題です。

その区域は、何と呼ぶのでしょうか。「東静岡地区」というのでしょうか。つまり、これは、今、藤田さんがおっしゃいました、みんなが憧れるような場所、これも「場の力」だと思います。そうすると、「ナポリを見て死ね」、「ナポリ」というので、みんな良くて、あるいは「日光を見て結構」で「日光」。どこまで入るか分かりませんが、この地区のネーミングですよね。何か県の方でそれをお考え、あるいは皆さんから、これを何と言うか。

【川勝知事】 夢殿地区と。

【高階会長】 夢殿地区。(笑)何かそれは今後、いろいろ計画を立てていって、なおかつ、いろいろ皆さんの知恵を伺っていくうちにどんどん定着させていく必要があると思います。いつまでも「東静岡地区の何か日本平まで広がっていった三保の」というような説明ではない、もう一言です。

【芳賀委員】 三保松原のはごろもの伝説、美しいです。それから、富士山のいろいろな信仰の対象、芸術の対象、それから先ほど川勝知事がおっしゃったように日本平周辺には聖徳太子あるいは日本武尊を中心とした一種の神話の力がどこかで宿されている。

それをまとめて何でしょう、「はごろも地域」ですか？

【後藤委員】 私が言うとまずいですが。(笑)

【芳賀委員】 そうか、それは具合が悪かった。

【後藤委員】 私が言うとまずいのですけれども、例えば「はごろもカウンティ」とかいかがでしょうか。本当は「富士山カウンティ」にしたいのですが、ここだけ富士山と言うわけにはいかないのです、やはり。

【芳賀委員】 でも、「はごろも」とだけでも言うわけにもいかないですね。日本平まで含めると。

【後藤委員】 いえいえ、別にそういうイメージは、だけれども、分かりますから。

【芳賀委員】 そうですね。

【後藤委員】 それと、先ほど芳賀先生もおっしゃっていましたが、今の時代、誰が一番強いかというと、やはり子供さんだと思うのです。だから、我々も今、こういう歳になって、結局孫が行きたいという所へ付いて行くわけです、現実問題、そこへお金をかけているわけです。

私がイメージしている子供は、中学へ行くともう大人みたいになってしまいますから、小学生以下ぐらいの子供たちです。

その子供たちが行きたいと言えば、お年寄りはずついで行きます。

【芳賀委員】 お母さんが来るでしょう。若いお母さん。

【後藤委員】 そう、お母さんも一緒に。

【芳賀委員】 時々、おばあさんが付いて来るでしょう。おばあさんが付いて来れば、おじいさんも付いて来る。(笑) だから、非常に良いです。

【後藤委員】 芳賀先生のところがやっておられる例のキッズを対象とした美術館とか博物館を見学するプロジェクトを発展させる必要があると思います。それから、いずれにしても既にあるものをイメージしては駄目だと思うのです。新しいものを何か、今ないものをつくっていかないと駄目だと思うのです。

【芳賀委員】 だから、やはり夢殿ホール。

【後藤委員】 夢殿ホールでも。いずれにしても、何しろ柔軟に考えないと駄目だと思うのです。

【木苗委員】 今、子供さんが云々と言ったのですが、その前の段階で、今、若い世代がなかなか結婚しないと聞きます。というのは、決して変な意味ではなくて、大学生や若い人に結婚に対する夢や憧れはあると思うのですが、現実の問題として結婚する人や出生率は、これからもどんどん減ると思うのです。男女問わず生活力を持てる時代ですから。私は何十年も学生を見てきましたが、学生がもう少し結婚や子育てというものに対する夢や明るい展望を持てるようにしないと、子供、子供と言う前の段階で止まってしまっているということもあります。また、静岡ならではの特産物や文化もあります。そういう中で、あそこへ行けばそういう気持ちになるし、あるいは、誰かがいて、そこで、もう少し夢のあるものもつくれたら良いかなと、そんな感じがしました。

【芳賀委員】 それが夢殿ホールの一番上にコーヒーショップもあるし、レストランも

ある。

【木苗委員】 結婚式場も。

【芳賀委員】 そこで結婚式をやっても良いし、そういうように使えば良いでしょう。それから、ケーブルカー、ロープウェイがあれば、ロープウェイの中で二人で語れるというふうには。(笑)

【岩崎委員】 いや、私はもう今日は憎まれ役で出るつもりでいましたので、徹底して言わせてもらいますが、玄関口は東静岡ではないと思っています。やはり、日本平と三保をつなぐ玄関口は草薙です。これから東静岡からロープウェイのようなものはできるわけではない。この時代、これからどんどん財政規模が小さくなって、人間が減っていく中で、夢想だにしないプランだと私は思います。

むしろ、JR東海の駅もあり、静鉄の駅もある草薙駅が、しかも、名前が「草薙」ではないですか。本来のやはり日本平の入り口は草薙だと考えた方が良く。アクセスとして。これは、どれだけこれからお金を投ずるのだということも含めまして、東静岡を玄関口と言うのは、私はもうこれは最初に拝見したときから無理があるのではないかと考えていました。これは素直に申し上げたいと思います。

もちろん、いろいろな意味で御批判があることは承知の上で申し上げておりますが、むしろ、繰り返しますが、東静岡は駅の近くにあれだけの未開発の土地を持っているという所はほかにないことから考え、かつ、県都であることを考えたときには、もっと有効に人を集める手立てを考えるべきだと。商業的に何がふさわしいのかということも徹底的に考えるべきだと私は思います。

これは一度言っておきませんと、文化の話ばかりが盛り上がりますと、言う機会を失いますので、最初に申し上げたいと思います。

【酒井委員】 実は、事務局とこの会議の打ち合わせと申しますか、説明に来ていただいたときに申し上げたら、今日は第1回目だと。2回目以降の話はそのときやるから、あまり2回目以降の話はしないでくれと言われたのですが、岩崎さんにああ言われてしまうと、言わないわけにはいかないものですから、申し上げるのですが、やはりこれから議論するに当たって、私はやはり主語がない議論は意味がないと思うのです。

ですから、漠然とした主語でも良いのですが、例えば行政がやるのか、民間がやるのか、それでも良いのですが、やはりそれがない議論は、具体的な話をするのは意味がないと思っています。

ですから、民間からすると、話が小さくなってしまいかもしれませんが、やはり誰がやるかという議論をしながらやっていくと、先ほどのロープウェイはおそらく結論は出てくるだろうな——先ほど言った東静岡の話です——という気がしています。

それともう一つは、このエリアでいきますと、やはり静岡と清水が核になっている部分がありまして、東静岡をどうするかというときに、先ほど木苗先生もおっしゃっていましたが、静岡はどうなってしまうのだいという部分はあわせて考えなければいけないと思っています。これをやることによってトータルでプラス機能になれば良いが、下手をすると、静岡が死んでしまう可能性がある。

ですから、やはり東静岡というエリアの中で周辺もプラスになっていくような議論をしていかないと意味がないような気がしています。

【芳賀委員】 東静岡が元気になって静岡駅の方が死ぬとか言うが、そんなことは絶対にない。東静岡に活気が出れば、向こうも活気が出てくる。

それから、どうしたってやはり有度山、日本平との間には万難を排してロープウェイが必要である。(笑) あれがないと、老人も行けない、子供も行けない、また、子供を連れたいお母さんも行けない。自家用車を持っていけば良いが。それからバスも本数がごく少ない。どこから出るかも分からない。

【酒井委員】 私が申し上げたのは、ロープウェイがいけないと言っているわけではなくて、主語をつけましょうということなのです。

【芳賀委員】 だから、主語は県と市でつくる。そのための計画をしているのでしょうか。要するにそれは静岡県民、静岡市民がつくるということです。

先ほど、誰のためという話がありましたが、あれは要するに静岡市民のため、静岡県民のため、そして静岡県周辺の人のため、それから富士山に登山に来る人のため、それから日本国民のため、世界の市民のためと、ずっと全部つながっています。

で、静岡県がよくやれば、富士山に来た人は必ずここに——今さっき、ここは入口にならないとおっしゃったけれども、入口をつくるのです。出口ではなく入口を。こちらに入口をつくって静岡駅の方が死ぬ、そんなことは絶対ない。

東京だって浅草があり、銀座があり、六本木があり、代々木があり、原宿があり、池袋があり、幾らでも拠点がある。静岡はそういうのがなさ過ぎる。あちこちにこういう拠点をつくっていく。草薙なんかもちろん、もっと神話、日本武尊を使って焼津と結んで、あの辺を日本武尊市とか日本武尊郡とかそういうふうに言ってしまえば良いぐらいである。

銀行家たちはそうおっしゃり、それは非常に良いのですが、まず夢を追う、「夢殿」ですから。それがなければ、東静岡を活用する意味がない。

【高階会長】 いかがでしょう。基本的な問題で、東静岡へ来て今日も拝見した県有地があって、それは県として、それからお向かいに市有地がある。どういうふうにするかということはあるのです。

名前で言うと、「草薙」というのは、私も大変いい名前だと思うのです。あそこの場所、駅に行くと大変小さくて狭くて、周りに何もなくて、玄関のような形になるか。

さらに、私の考えでは、「草薙」という地名は、あそこは限られますから、もう少し広げて東静岡までこれは草薙だと言えるのか。

つまり、その区域の名前をつけるときには、「夢殿」もいいし、何かファンタジックなのもいいのですが、やはり土地に根ざしたものがいいと思うのです。ナポリでも日光でも良いですが、「夢殿」だけではない、この土地というものに根差した、そうすると、焼津にも歴史があればなおいい、そうでなくても、それが東静岡だと、やはり静岡ともう一つみたいな感じだから、別の名前を。これは文化のみならず「場の力」を引き出す上で大きな問題ではないかと個人的に考えますが。

どうぞ。

【伊東委員】 東静岡をやったら静岡がどうなるかという話もありましたが、私が耳にしているところでは、静岡市では東名のスマートインターができることも念頭に、大谷小鹿地区の方の再開発の計画があって、その中でスマートインターから清水インターまで抜けるような周遊・回遊のルートをつくりたいとか、そういうような話も小耳にしたことがあるのですが、そういう計画があるのであれば、それは早目にお知らせいただいて、そういうものを含めて計画を立てないと、後でまた大変なことになるかなと思います。

【高階会長】 今のことは何か市からご返事はありますか。まだ次のあれに？

【静岡市長】 平成29年度に新しいインターチェンジはもう供用開始で、今、これも公開情報で事業が進んでおります。

これも（仮称）東静岡インターチェンジということなのですが、JR駅の東静岡とこのネーミングで本当に良いのかというような議論も、今、問題提起は市民の皆さんから言われています。ですので、エリア全体でどうやって「場の力」を活かしていくというのは、まさにこのインターチェンジを含めた上での構想が大事になってくるということは、全くそのとおりです。

【高階会長】 ほかにどなたでも。

【内藤委員】 新幹線をよく使うのですが、いつも静岡は通り過ぎるという感じ。特に私は草薙体育館の設計をさせていただいてから、新幹線からどのくらい見えるかなというのを通るたびに気になっています。多分、この計画ができ上がるときに、やはり新幹線からどう見えるかというのは、この市有地にしても県有地にしても、すごく大事で、ちょうど静岡に向けて速度を落とすところなので、大切なところですよ。

やはり新幹線からどうかというのも、この地域にとって視覚的メッセージとして大事だと思います。

【石塚委員】 このプロジェクトの時間軸をどういうふうにするのかというのは一番大事なところなんだろうと思いますので、できれば事務局の方で答えたいと思います。

それから、今の新幹線の話で言いますと、例えばリニア計画というものが2027年に今の計画では完成することになっていますが、そうすると、今の新幹線のサービスは相当変化するだろうと思います。ですから、基本的に、のぞみのお客様はリニアにシフトすることになると、今の新幹線はやはり、特に静岡県にとっては相当サービスとしてはプラスの方向に行くだろうと思います。そういう意味で、いろいろな外のお客様の取り込みと申しますか、そういうものは長期的には考えた計画にする必要があるのではないかと思います。

【高階会長】 時間軸と言われるのは、具体的にこの計画がどういうビジョンで？

【石塚委員】 要するにこれだけの膨大な計画をどういう格好で整理していくかという、そういう意味の時間軸です。

【高階会長】 いかがでしょう。

【企画広報部長】 では、事務局から、参考になるか、考えだけお伝えします。

「文化力の拠点」として東静岡地区に整備を考えている建物としては、今年度、この有識者会議で「文化力の拠点」のコンセプトをまとめていただいた後、来年から2年ぐらいかけて基本計画的なものを検討して、さらには施設整備に当たっての設計コンペというようなことを考えていきますと、実際に着工するまでで四、五年はやはりかかるのかなと考えています。それから建設という形になりますので、すぐのすぐという時間軸ではなく捉えています。

その間に、やはり周辺、日本平から、さらには三保松原に向かう地域の施設との有機的な連携が図れる機能であるとか、そういうようなコンセプトを実際に実現していくことに

よって、最終的に全体の「場の力」の底上げにつながるような施設にしていきたいと思っています。

【高階会長】 ということが良いですか。

【芳賀委員】 グランシップが、今度、ちょうど向かい側にあることになります。グランシップは重たくて、とんがった建物で、だから、こちら側の夢殿ホールの方は軽やかで、半透明で、はごろもを着ているような感じで、それで、それを透き通して富士山まで見えてしまうような、それで子供たちも遊んでいるところも外からも見える、新幹線からも見えると「あれ、何だろう」と、夜になっても、ぼーっと明かりが灯っている。

だから、グランシップに対して、プチシップが良いのです。プチというのは、プチ向けの子供たち、少年少女たち、それが中心になって、大学生も来る。

それから、子供たちが来れば、お母さんも来る、お兄さんも来る、おじいさん、おばあさんもやがて来る。それから勉強したいという大学生がやって来る。上の方には、さっきから言っているように非常に良い静岡の産物を使った、いろいろな料理が出る。コーヒーも出る。優秀なシェフを雇う。

宿泊施設も若干とってもいいかもしれない。富士山をめぐる国際シンポジウムは、日本平でやっても良いし、ここの夢殿ホールでやっても良い。

それからどうしても日本平との連携というのと、とにかく足の問題です。バスとか自家用車を使えば良いというのでは、それは元気な人に限られるので、そうではない人たちはバスが駄目。バスはものすごく不便で。あるいは、バスをもっと多くするか。あるいはやはりロープウェイ。そうすると、ここはもっと活気がついてくる。それくらいの賭けをする。

【高階会長】 はい、知事、どうぞ。

【川勝知事】 芳賀先生がおっしゃるとおりで、それで今、車でしか美術館にも、あるいは日本平ホテルにも行けないでしょう。ですから、いかにして公共交通機関で大学、図書館、美術館等々に人を運ぶかということで、実はありとあらゆるルートを既に、私、個人的にそこにいる大野さんとかで研究した結果、実はロープウェイの、あるいはゴンドラの基地というものとして唯一とれるところが、清水側の県有地の柑橘センターということで、ここに至るには、実際に歩いて、また、どういうふうにロープを伸ばすかについては、障害物もありますから、それを検討した結果、差し当たって今のところは柑橘センターのところから、それは駿河湾からストロベリー道路があるのですが、それを50メートルほど入った所に、山陰になっているので見えにくいのですが、天皇陛下までお越しになられ

ました柑橘センターという立派な、そこから富士山も見えます。少し上がれば、もう駿河湾も見える。そこからですと、2キロですと5分でてっぺんまで行けるとい、そういう場所が唯一見つかりました。

で、実際、今、酒井さんほかがおっしゃったように、経済的にも、物理的にも、技術的にも、非常に静岡市側からは難しいということがあります。だから、これを何とか克服したいと思っているのです。

だから、藤田さんがおっしゃったように、どのような公共交通機関を通して上の方に人を持って行くかということなのですが、基本的にここは大人の、いわゆる県庁所在地であり、市役所もありますから、大人です。しかし、子供さん、それから若者、それから高齢者というよりも一線を退かれた、勉強もしたいという方たちです。若者も、コンソーシアムというのは、もう20の大学が全部寄ってやるようなものですから、共通のカリキュラムを組んで、あるいはまた外国の人が来ると。だから、若者のにぎわいも、東京に対して昔の新宿とか渋谷があったような、そういうイメージです。個性化を図らなければいけないわけです。

それで、東静岡という駅は、本当に何の文化性もない名前です。これは駄目です。草薙というのがどこにあるかもなかなか難しいので、位置関係が分かるようにしなければいけないという面があるのです。私は、「日本平久能山東照宮駅」というのを田辺市長が冒頭言われたときに、日本で一番長い名前だというだけでもイメージが、発信力があります。それを変えるだけでも1億円ぐらいかかるらしいのです。

それはともかくとして、仮にそこが玄関口でないなら、門です。玄関口が草薙で、そこが門。玄関、そしていわゆる奥に入ってください。奥の頂上が夢殿ということになります。

この夢殿は、遠山先生がおっしゃったように、正に今は「点」でしかないものを「線」で結び、そして「面」にする。したがって、最初にお見せいたしました航空写真だとか、あるいは図面でも一応面で描いて、面をどのように命名するかというのは、それができたときには半分できている。だから、言霊を上手に入れ込むような、それが土地名を彷彿させるような、そうしたものが“ふじのくに”のいわば都なのです。新都なのです。

ですから、この夢の都。夢殿があり、夢殿ホールがあり、そういうところを、そんなに広いようで、そうでもないのです。交通の便が悪い。それから、街並みも決してきれいではないです、申しわけないけれども。ですから、緑の景観、これは東さんがおっしゃった

ように、ここは宝物です。草薙にはたくさんの植木職人もいらっしゃいますので、これは花の道で上手につくってあげれば、あまり汚い景観も気にならないというところがありまして、実際はグランシップと駅との間に、世界一のランドスケープガーデナーである石原和幸さんが、今度、130万人もの集客をした「桃源郷」という庭がありますが、それを今度こちらに持ってきてもらいます。

そういうことも含めまして、そして、内藤先生がおっしゃったように、やはり新幹線から見てグランシップ、船をひっくり返して何だという感じです。一方で、県立大学のレンガ造りの建物は、緑を借景にして、なかなかたたずまいとしてきれいなのです。必ず駅を通りますので、今、新幹線は1時間に15本走っているのです。その内、のぞみが11本ないし9本ぐらい走っているのです、ひかりとこだまだけなのですが、やがて先ほど石塚さんがおっしゃったように、のぞみ機能はみんなリニアに行きますから、急行をひかりとすると、全て静岡には急行が停まります。

ですから、そこから上野に行く、ないしは浅草に行くといったような感じで、隣駅一駅で東静岡のそういう若者の、あるいは子供の、おじさんの楽しいところに行けるということで、ずっと夢殿のてっぺんまで面的に考えるそのアクセス方法、「線」の方法、どなたかがおっしゃいました。まず「線」としてどう結びつけるかということからやっていかなければなりません、私は、「面」の力を通して「点」の力を上げていく。「点」の力を上げるためには、それを包んでいる全体の「面」、これを常に念頭に置いてつくっていく。今のように、ここは自分の土地だから、何をつくってもいいだろうと、これをやったらもうかるという形では、申しわけないけれども、静岡市は県庁所在地としてのマジエスティックな雰囲気は全くありません。

【芳賀委員】 ない、何もない。

【川勝知事】 何もないと言っていいぐらい、そういう文化人から言われるたたずまいなのです。だから、これをやり換えるとなると大変です。

ですから、その傍らに、ちょうどローマの傍らのガリアに新しいパリができる、パリの傍らにロンドンに新しいものができた。ロンドンの傍らのニューヨークに新しい州市ができたと同じように、新しいものはその周辺から出てくる。その周辺の可能性を、日本平を見ながら考えよう。上に行ったら駿河湾が見えるぞ、富士山が見えるぞ、これを見ながらここを考えるとというふうにしないと、本当にその力の持っている潜在力は引き出せないということで、この検討会を開いているということでございます。

【高階会長】 よろしいでしょうか。

遠山委員、最初の「線」と「面」のお話をされた、それから歴史の遺産の重要性、それは将来の子供の問題にも。

【遠山委員】 そうですね。やはり交通網をどうやってきちっとやっていくかという、「線」としてつなぐ、これは定期的に——これは静岡鉄道の方に答えていただくのかもしれませんが、魅力的なバスをつくって定期的に運んでいく。渋谷のハチ公バスなんてあるのですが、それは定期的に循環しておりまして、そこで待っていれば必ず来る。10分なり、15分なり、静岡の場合はそこまでは無理かもしれませんが、そういうものをつくって、それに乗れば必ず。清水の方からのというのは、ちょっと静岡の人は使いにくいわけです。あるいは新幹線で来た人には使いにくいということです。

【川勝知事】 モノレールという考え方もあるのです。ただし、ロープウェイとか、あるいはゴンドラはロープを張るから、そういう制約を考えますと、実は目下のところは果樹研究センター以外の候補地を探すのは大変難しい。特に静岡側は難しい。

それから、もう一つ言いますと、合併をして、清水側は決してハッピーではないと見ています。ですから、清水側を励ます必要があるのです。何のために合併したのかということが、今度の富士山の文化遺産なり、それから夢殿の構想というようなことを通して、何とか三保松原側、あそこの方たちを励ます。そしていずれ経済の中心になるのははっきりしているのです。甲府から清水港まで3年以内に骨格道路がすつと通りますから、大変なにぎわいのまちになるのです。

ですから、そこの人たちが今のように静岡が中心だと思っている。甲府の人たちはほとんど清水港に来て、土肥港に船で渡って楽しまれているのですね。それが今ですらそうです。直線距離で60キロぐらいでしょう。あつと言う間に静岡に来られる。だから、清水は武田の領土になるのです。(笑) それぐらいの可能性がもうすぐそこにつながっている。

だから、清水港あるいは海の景観、ここをきちっとしたきれいなたたずまいを考えながら、聖なる土地としての日本平。もともと「日本平」と言われていたのを、蘇峰が「日本^{やまとだいら}平」と読みかえたと私は理解しています。

【遠山委員】 ええ、それは、ですから、是非やっていただきたいと思いますね、その清水からのルート。

そして、山頂へ上ったときに、久能山東照宮という静岡だけが持っているすばらしい宝とつなぐあたりが、アクセスが非常に悪いのです。是非あれをスムーズにつなげて久能山

にも行き、そして歴史の深みを感じることができるような、あのロープウェイももう古いですから、(笑) その辺りを変えていくことがあると思います。

それと、先ほど何か少し、恋人たちも行けるようなという話ですから、先ほど「吟望台」を見たのですが、あの辺、もう少しネーミングも変えて。

【高階会長】 何に？

【遠山委員】 何でしょうね。(笑)「恋人の」では変ですから、「えにしの」だとか「望みの」、「希望の何とか」とか、そこへ行って何か楽しいことがあるというのを要所、要所につくっていく。そして、バスが回って行くときに、そこに必ず彫刻があるとか、あるいは花で道の端を飾るとか、これは相当、時間はかかるとは思います、やっつけば、東静岡の拠点から上につなぐ楽しみはできると思います。

それから、新幹線から通れば、右側に市の方ですばらしいアリーナかスポーツ施設をお作りいただいて、右を見ようか、左を見ようかと思うぐらいに、グランシップに呼応する施設、ただ、本当に大きな建物が要るのかなというのは、私はちょっと考えますけれども。

例えば、先ほどの「都づくりの取組」のところに、茶とか、食とか、花とございますが、緑の良さもおっしゃいましたが、何かそういう、建物の無機質なものがぱっとある方が良いのか、あるいは、そこに行けば豊かな自然と、植物と、あるいは海の幸でもいいですが、そういう恵みの感じられるものの拠点であっていいのではないかという意味で申し上げました。

【高階会長】 ありがとうございます。

市長。

【田辺市長】 ただ今の遠山委員の御発言を受けて、もう時間も迫っておりますので、私から御礼方々、御提案をさせていただきたいと思います。

今日はブレインストーミングでありますので、共通の認識とすると、この東静岡、草薙をゲートウェイにして、この地域から日本平、久能山、そして三保半島まで俯瞰するような、そんなスケールのエリアの「場の力」を最大化する、これは世界的なスケールで求心力を強めていくという方向性は異論がないかと思えます。

その中で、今日、総論から各論まで、いろいろな御意見をいただきました。今日のところは、先ほどどなたか委員がおっしゃってくださったように、知事と私が行政の当事者、責任者として、ともに有識者の皆さんの御意見を拝聴させていただく機会をいただいた、

場をいただいた、つまり、この有識者会議が「場の力」そのものであります。そういう機会をいただいたことに、まずもって御礼を申し上げたいと思います。

さて、今日、三つ議論があるわけです。地域、エリアとして大きくどう構想するかということ、今日はそれを中心にということでしたが、本当にそれぞれいろいろな立場からの御意見をいただいて、そうではなくピンポイントとして東静岡のあの地区をどうするかという、拠点、スポットとして議論を深めるべきだと。そして三つ目は、美しい光景、景観、マジスティックなまちの雰囲気はどうデザインの立場から構築していくかという、この三つの論点があるわけです。

これはそれぞれ、大事な論点でありますので、事務局の方々に提案なのですが、是非この三つの論点別にひとつ分科会的な、これ、三つの論点ごとに一つ一つやはり掘り下げていくそれぞれの専門家、デザインの専門家、そして東静岡をどうするかという経済的な観点も含めて実務者の分科会、そして、地域全体に文化力をどう上げていくかという問題、それを掘り下げていく必要があろうかと思えます。

今日は第1回目ですので、本当に事務局の皆さんがこのような資料を準備してくださって議論が始まったということは、大変な御尽力に感謝を申し上げますが、先ほど伊東学長からも御質問いただきましたが、静岡市では、今、来年度から8年間の第三次総合計画を策定中で、その骨子案を今、市民のパブリックコメントに付しているという、1カ月間やって、市民の意見を募集しております。これは2年間かけて、これから8年間の静岡市をどんなふうにまちづくりを進めていくかという私たちの考え方をまとめたものなのです。その計画も、ぜひ重ね合せていただきたいと思えます。

今日、私、これは決して批判しているのではないです、しかしながら、東静岡周辺地区の現況ということで、鳥瞰図的な絵を見せていただいたのですが、実は、市とネクスコのレベルで、もうこの新東名の静岡インターチェンジから東静岡、そして大谷小鹿に至る静岡南北地区を都市づくりの重要なラインとして、この大谷小鹿地域に新しい東名のインターチェンジが29年度に供用開始というのは、三次総の中で熟度が高い事業としてスタートするのです。だから、これは少なくともここに入っていて欲しかったです。

あるいは三保地区。三保松原の観光客が世界遺産効果でおかげさまで3倍になりました。知事からも強い問題提起をいただいて、ここに本格的なビジターセンターをつくってほしいということも三次総の中では盛り込んでおりますが、この資料にはないわけです。ふじのくに地球環境史ミュージアムと同じレベルでこれを我々はもう構想が具体化して、来年

度から動き出します。

なので、いずれにしても、市の実務者も次の会議の準備までに、今まで私たちがやっていることを情報提供した上で、そして、重ね合せていただいて、先ほどの三つの論点、エリア全体をどうするかということと、東静岡の県有地、市有地をどうするかということ、あと三つ目はデザインをどうするかということですね、そういうことについて、それぞれの論点別に整理をしていただければありがたいということを、これ、委員長、御提案をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【高階会長】 ありがとうございます。

いろいろ皆様から御意見がございました。市長からも御意見がありました。それらの御意見、ほかにもいろいろあるかと思えます。予定の時間が迫ってまいりましたので、意見交換はここで終えたいと思えます。

御発言いただいたほかにも、まだお気づきの点、あるいは今日のお話を聞いてこういうことをということがあれば、皆様のお手元の意見用紙に御記入いただいて、事務局宛てに御送付いただければと存じます。

事務局におかれましては、それらの意見を踏まえ、もちろん今日のいろいろな皆さんの御意見を踏まえ、そして、具体的には第2回以降どういうふうにするかということですが、それと同時にいろいろな資料、今、市長からございました実務者の間でいろいろ情報はもちろん共有し、それから三つの論点でどういうふうにある時間的な枠の中でやればいいのか、それもお考えいただいて、ただちに分科会という、皆さんがいろいろなところに行く方が良いという気がします。それぞれの。ただ、事務局の中では、それぞれの問題についてよく分かっている方はもちろん必要だろうと思えますが、そういう会議を進めていただくとか、いろいろなやり方も含めて、これらの意見を踏まえて第2回会議についての準備をお願いしたいと思えます。

【芳賀委員】 第2回ときは、何の話になるのですか。

【高階会長】 第2回の問題は、本県の玄関口にふさわしい云々ということですね、事務局。先ほど、最初に「東静岡駅周辺のまちづくり」……。

【企画広報部長】 ええ、予定をしておりましたのは、三つの協議事項の二つ目と三つ目、「東静岡地区」と「南口の県有地に整備をする施設」ということですが、今日、そういうことも含めていろいろ御議論いただいたので、一旦、三つの協議事項ごとに整理をいたしまして、今日、お話がなかなか出なかったというその日本平からさらには三保松原へ向

けた地域の「場の力」を上げることについても補足の御意見等があれば、そういうことをお伺いしながら、今日の御議論は三つの協議事項別にそれぞれ整理をさせていただきます。また、紙でいただいた御意見についてもそういう形で整理をして、次回は少し交通整理をした御意見をいただくような場にさせてもらいたいと思います。

【芳賀委員】 とにかく駿河湾があって、三保松原があって、富士山があって、それから久能山があってでしょう。すばらしいのですよ、これね。それに、日本平という神話の地域があって、それをまとめて真ん中に夢殿を出す。

【高階会長】 はい、わかりました。

それでは、長時間にわたる熱心な御討議、皆様、御協力に感謝申し上げます。

ここで進行は事務局にお返しいたします。

【企画広報部長】 長時間にわたる御議論、ありがとうございました。

それでは、次回また12月ということですがけれども、ただ今説明しましたとおり、整理をいたしまして、また皆様方にも御説明に上がりたいと思いますので、よろしく願います。

それでは、閉会に当たりまして、知事から一言御挨拶をお願いします。

【川勝知事】 本当にありがとうございました。

12月の第2回るときには、またさまざまな個別の資料提供などがありましたら応じますので、そして、12月るときには、是非また御出席を賜りますようによろしくお願い申し上げます。高階先生、また、委員の先生全ての方々の御発言を賜りましたこと、本当にありがたく、厚く御礼申し上げます。

また、市長さんも最後まで席におられまして、ありがとうございました。

本当にありがとうございました。(拍手)

【企画広報部長】 では、以上をもちまして第1回会議を終了いたします。お疲れさまでございました。